

## 教育目標（育成する人材像）

2045年までに、人工知能が人間の能力を超える時代が来ると言われています。しかしアートは簡単にAIに置き換える事が難しい人間の大切な営みです。美術工芸学科はその時代をしっかりと見据え「徹底した基礎技術の習得と、知的好奇心の醸成を通じて、ねばり強く考え、つくり、伝える」人間を育てます。

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### 修得する能力

|            |                                             |
|------------|---------------------------------------------|
| 探求力        | 自然環境と人の営みに、新鮮な好奇心を持ち続けることができる。              |
| 思考力        | 問題解決を導く多彩な思考方法を習得できる。                       |
| 発想・構想力     | 基本的な論理展開を学んだ上で、非論理的な思考方を身体化できる。             |
| 表現力        | 徹底した基礎技術の訓練と先端技術の習得を通じて、自在な表現が可能になる。        |
| 行動力        | さまざまな関係性を理解した上で、的確な行動ができる。                  |
| 継続力        | 好奇心を絶やさずに、自己効力感を維持する事ができる。                  |
| コミュニケーション力 | 他人に真似できない核となる能力を伝える手法を得て、的確に他者に感動を伝える事ができる。 |

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- 学科としての教育目標とディプロマ・ポリシーを踏まえたPDCAサイクルを、個別科目にまで反映できるようにシステム化しています。1年次生の前期に、ファウンデーション科目を設けましたので、美術工芸学科内で他コースの講座を受講し、希望のコースへの転コースが可能です。（転学科・転コースについては本学の定める手続きが必要です）
- 1年次：まったく絵を描かないで入学する学生もいますし、予備校で技術的に高いレベルのデッサン力を有する学生もいます。1年次のカリキュラム設計指針は、技術よりも学生個々の興味や突出した才能を発見できるように、多視点的に適正を判断するカリキュラムを用意しました。
- 2年次：各コースの専門領域へのドアが開きます。この一年は将来を決定する重要な一年となります。専任の教員のみならず、職人や研究者など多彩な顔ぶれのプロフェッショナルが量を中心とした科学的なトレーニングを行う事によって、経験や体験に基づく確かな自信を得る事ができるように育てます。また自己の特性を認識する段階に並走して、ロールモデル研究を行います。
- 3年次：この学年は、それぞれの専門性をより深く探求する学年となります。2年次生までに習得した技術や思考方法を実社会に活かすために、インターンシップやプロジェクトへの参加、また「学生作品展」を中心とするグループ展を開催するなど、積極的に社会との関わりを図ります。本学の教員陣のネットワークを存分に活かした将来性のあるステージの提供により、国内外を問わず大学院への進学を積極的に支援します。
- 4年次：いよいよ4年間の成果を問う「卒業制作」を行う学年となります。また自作を的確に言葉でプレゼンテーションする能力を強化すべく、文章作成講座や作品発表練習と講評会の開催を頻繁に行います。また、引き続きキャリア構築を目指して多様な選択肢を紹介し、活躍する先輩の講演も定期的で開催。積極的にファーストキャリアにチャレンジするように、ゼミ担当教員がマンツーマン指導を行います。